

地域連携が新たなステージを繋ぐ

横浜市緑区

グランドマスト横浜鴨居

株式会社ツクイ横浜第一エリア 中嶋 啓祐

1. はじめに

グランドマスト横浜鴨居ですが、積和グランドマスト株式会社よりツクイが業務委託を受け、昨年の12月より日中の生活相談を含む24時間の有人化、また、給食委託業務を受け関わらせて頂いております。

委託当初、地域の皆さまに対して、グランドマスト横浜鴨居を『知っている』または『見学されたことがある』と答えられた方は約1/10。実際にどんなところだったかの問いには、『よくわからない』と答えられた方がほとんどでした。この地域との距離感を頭の片隅に入れて頂き、以下の取り組みについてご覧いただければと思います。

まずは簡単にグランドマスト横浜鴨居の周辺環境及び資源についてご紹介させていただきます。場所は横浜市緑区鴨居にあります。最寄り駅は、JR 横浜線鴨居駅で歩いて20分、バスで10分のところにあります。おとなりは業務スーパーで、目の前には小学校があります。ボランティアや保健活動推進委員の活動も活発で、歩いて5分のところには 鴨居地域 CP があります。そんな中実際に地域交流が全く無い中地域と距離を縮めるためにどんな取り組みをしたかをご紹介させていただきます。

2. 地域連携について

まずは医療連携です。サ高住で必要性の高い「地域包括ケア病院」そしてリハビリを重点的に行う「リハビリ病院」との連携を行いました。また、訪問診療に関しては「内科」・「神経内科」・「緩和ケア」それぞれ専門科別に連携先を選定、ケアマネジャーへは、その方の疾患にあった訪問診療先として情報の提供をさせて頂いております。何かあった時にはすぐに入居者様の相談に乗って頂ける体制を整備致しました。続いて地域住民との連携では、「どんな建物なのかわからない・・・。入りにくい。」などのマイナス的な意見が多かったため、まずは地域住民と入居者様の交流が持てる機会「地域交流会」を月2回定期開催する事にしました。1回目は悲しい事に、参加者が1名という状況ではございましたが、鴨居地域 CP や民生委員に案内のご協力頂き現在では、毎回約30名近い方々に参加して頂いております。内容は体操を行ったり、講演の実施を行ったり内容は様々です。各専門職の方に毎回ご参加頂きながら提供を行っております。現在も月2回の交流会は継続しております。今では地域からの認知度も増し、様々な方が立ち寄りやすい環境になっている事もあり、交流会は毎回30名近い方が参加して頂いております。その他、学校に行けない子供たちの居場所づくりとして19:00～塾の場所を提供、地域のお祭りへの参加、おひとり暮らしの高齢者を対象に有料では御座いますが交流の場を持って頂きながらお食事の提供を行っております。

3. 実際の入居者様の事例

HY様年齢80歳。以前のお住まいは相模原市のマンションで一人暮らし。転居のきっかけは・

身体の衰えを顕著に感じる・夜間に何かあった時の不安、とにかく『不安』などです。当初は、介護付き有料への入所を考えられてツクイ・サンシャインをご見学に来られた方です。家族や友人からは「元気だし何の心配もいらないでしょ！」と良く言われていたそうです。しかし、人が思っているより 限界を感じていたそうです。『今、「孤独死」という事を良く耳にするが、あれば自分にも言える。すごく怖いんだ・・・』とおっしゃっておいりました。グランドマストに引越すにあたり、同じマンションの人達からは「別の土地に行く事に不安はないの？」とか「逆に孤独感があるんじゃないの？」とも言われたそうです。確かに入居後もその不安からか血圧の変動も大きく、通院も頻回で、お食事を召し上がらない日もありました。どことなく元気がなく部屋に閉じこもるといった日も多くみられ、生活の範囲・活動量も自身で制限をされておいりました。少しでも不安解消になれば思い、30分以上お話しを伺うなんていう日が続きました。

現在のHYさんですが、先程ご紹介したグランドマスト内の地域交流会に参加し、そこで友達を作ったり、それがきっかけでグランドマストを出て地域のサロンにも参加しどんどんお友達を増やしておいります。もちろん地域だけでなく、他の入居者様とも会話のある楽しいお食事の時間を過ごされておいります。木曜日のコーラスでは11月に開催される100人コーラスの発表会に向け日夜練習をされているそうです。入居以前から活動量が少ない状況でしたが、現在では月曜日から金曜日までほぼ何かしらの活動に参加しながらアクティブな生活を送っており、入居当初では考えられない程元気に活動をされておいります。

4. まとめ

皆さんが思う「地域連携の目的」とは一体何でしょうか？きっと真っ先に思い浮かぶのは、●地域連携が大切と言われているから、●施設のウリとして入居促進できそうだから・・・と思われている方も正直いらっしゃるのではないのでしょうか？ただ漠然とした事ではなく、今回の事例のように入居者様がよりよい生活を送って頂くためには必須ではないかと考えておいります。住宅の中のサービスだけではなく、地域にどんどん出て行くという事で社会参加の機会も持つことが出来ますし、地域での役割が持てる事になります。それが住み慣れた地域で最後まで生活を送って行く事には必須だと考えておいります。その結果入居促進に繋がるという事はあるのかもしれませんが、ただ入居促進が進むかという理由には地域連携は当てはまらないと考えておいります。サ高住には自立の方や介護が必要な方など、様々な入居者様がいらっしゃいますので、その方に合った地域活動を提供する為にも今後も継続してどんどん地域に出て行きたいと考えておいります。